

特派員時代に見聞したエピソードから

年の暮れに当たり、かつての特派員時代の面白い話をいくつかご紹介してみましょ。私は、通算すると特派員として海外にいた期間は10年間ほど、訪れた国は32カ国になります。地域的にはヨーロッパの一部と主にはラテンアメリカつまり中南米でした。以下はそこでのエピソードの一端です。

その1

今はIT時代に入り、海外から日本に原稿を送る手段にも大変な変化が起こっています。生活の中でも、文字を相手方に送るのにはFAXやメールが当たり前になっていますが、約30年前、私がパナマに赴任した当時は、FAXさえもまだありませんでした。体験談のように急がない原稿は航空便で、ニュース性の急ぎの原稿は、電話で送ったものでした。

書いた原稿を電話口で読み上げます。それを、本社の担当記者が、原稿が短ければそのまま書き留め、長ければテープに録音し、それを再生するわけです。そのとき、まず電話口での最初のあいさつにとまどったものでした。時差の問題です。

例えば、ブラジルで、すべての取材が終わって原稿をまとめ送るのは夜の10時頃。ところが日本では朝の10時です。(ブラジルは日本とちょうど12時間遅れの時差があります)。

こちらはホテルのあまり明るくないライトのもとで「コンバンハ」。でも相手から戻ってくるあいさつは「オハヨウゴザイマス」。しかも、こちらは一日の仕事の疲れでランデーなど寝酒の時間なのですが、相手は朝の空気を胸いっぱい吸いながら、モーニングコーヒーで一番張り切っているときなのですね。

そう、ブラジルといえば、こんなエピソードもありました。地理的にはちょうど日本の真反対にあります。これをある時、ブラジル人と話をしている「日本の真裏のブラジル」と言ってしまう、ずいぶん反撥されたことがありました。

「何言ってるんだい。ブラジルから見れば日本こそ裏側じゃないか！」と。たしかにその通りですね。円い地球から見れば、どちらが表でどちらが裏かは決められないわけです。

ちなみに、南米で見る世界地図は日本のものとはかなり違っています。ちょっと小学校時代に習った世界地図を思い出してみてください。地図の図法によっても違いますが、もっとも一般的なメルカトル図法では、日本が地図のほぼ真ん中にあり、その左側にアジア、ヨーロッパのユーラシア大陸、アフリカ大陸、右側に太平洋をはさんで北米大陸、南米大陸が描かれています。ブラジルなどは右下の端の方にある。

ところが、あちらの地図では、真ん中に北南米大陸が描かれています。ですから、日本の位置はというと、地図上ではずっと左上の端、日本の地図で見るイベリア半島、つ

まりスペインの端、世界の外れのような位置になるのです。彼らの言うことも分かるような気がしますよね。

もう一つの大きな特徴は人種の混交です。

よくニューヨークは“人種の坩堝（るつぼ）”と言われていますが、私の駐在していたパナマシティも同じでした。ある時、日本での研修会に参加したパナマ人が帰国するなり言ってきました。

「セニョール・シミズ、日本での研修会は素晴らしかった。世界からの仲間に会うこともできたし、あの新幹線にも乗ることができた。日本人は本当に親切で感激しました。でも、驚いたことが一つあったんですよ。それは、日本に行ったら**日本人だらけ**ですネ」と。

先住民のインディオと、新大陸の発見以来、ヨーロッパからやってきた白人、それに運河の建設時に労働者として入った黒人や中国人。その子孫。そしてその混血。またその混血……。極端な言い方をすれば、100人集まれば、100人の肌の色が違うパナマからすれば、彼の発言もうなずけるような気がします。

もっとも、日本も近年は、いろんな国の人々が東京にもまた地方にも住むようになり、状況はかなり変わりつつありますが・・・・・・・・。

こうして海に囲まれた、世界の中でも特異な存在である日本と日本人についてこんな小咄も流布しています。ここで質問です。

「ある日、大洋を航海していた船が事故で沈没してしまいました。海に放り出された乗客は、遠くに見える島に向かって泳ぎだしました。その中のたった3人だけ、この小さな島に泳ぎ着くことができたのです。若い男2人と女1人でした。さて、この男2人は女1人をめぐってどんな行動をとったのでしょうか？」

答えは次の通りです。

フランス人：1人は彼女の夫に、もう1人は彼女の愛人になりました。

イギリス人：なんと2人は、彼女を放っておいて、自分たち2人で愛し合い始めたのです。

イタリア人：2人は彼女を自分が手に入れようと、決闘を始めたのです。

では日本人はどうしたのでしょうか？

日本人：2人は、島のどこかに電話がないかとあわてて探しに出かけました。本社に電話して、上司の指示を仰ごうとしたのです。

——この小咄、日本人の行動形態の特徴をよく表わしていると思いますよね。

もう一つ、同じようなよく知られたタイタニックのジョークがあります。ご存知の方もいると思いますが・・・。

——いよいよ沈没しかけた船から、男も女も我先にと救命ボートへ避難しようとした。大混乱になろうとしている現場で、婦女子を優先させようとして船長が説得を試みます。

まずアメリカ人男性に：「キミはヒーローになりたくないか！」

イギリス人男性に：「あなたは真性のジェントルマンだ！」

ドイツ人男性には：「君の国の法律ではそうなっているよ」

それぞれの国民性の特徴をよくつかんでいますよね。

では日本人男性にはなんと行ったでしょうか？

：「皆がそうするからあなたもそうした方がいいと思いますよ」

このように、日本人は、まず周りに合わせようとするんですね。周囲の目を気にし、突出することを恐れ、横並びを好み、他人のするように自分もする、という傾向を持っている。他人の目を気にし過ぎるように思いますね。

私の好きなドン・キホーテの言葉にこういうのがあります。

「理想と正義に向かって突進するオレのことを、皆はおかしいと言う。でも、やりたいことがあるのに、世間の風評、体面なんかを気にして現実に妥協、やろうとしない彼らこそおかしいんじゃないのかね」

この言葉の後半部分は、日本人のメンタリティー、傾向性をも表わしていると思いますね。そろそろ自分の意思を明確に表示し行動する日本人が増えてきてもよいのではないかと思います。昨今です。